

親子聖書日課

[日]ユダヤ人は律法を得たことに満足し、自分を義としたことで驕り高ぶり、異邦人を裁きました。しかし、彼らの行いは異邦人と変わらず、自己中心でした。私達も救われたことに満足してはいけません。日々、悔い改め、神の裁きを逃れましょう。

[月]奉仕も献金もよくやっているから、良い信者だと思ってはいけません。信仰が試される時、常識の範囲から一步も出ない人がいます。信仰は外見ではなく、中身です。いつも主と繋がり、霊に燃やされ、御言葉に従う人こそ、主に喜ばれます。

[火]いつの世も「正しい人は一人もいない」のです。神の前では、誰でも罪人です。罪をもったままでは、平和の道を歩めず、天国に行けません。そこで主が十字架で罪を全て引き受けて下さいました。主を信じるだけで、全ての罪が赦されます。

[水]良い行いをしても、義とは認められません。むしろ、善に熱心な人ほど、神の義にほど遠いのです。アブラハムと同様、ただ主を信じるだけで、義と認められます。それには自分が罪人で、主の赦しなくしては生きられないことに気づくことです。

[木]「理解できたので、信じます」というのは、信仰ではありません。アブラハムは「希望するすべもなかった時に、尚も望みを抱いて信じた」のです。信仰は経験や知識に頼らず、ただ神の言葉に信頼して、従うことです。絶望は希望に変わります。

[金]苦難は、とても喜ばせんね。しかし、パウロは「苦難をも誇りとしま」した。それは、苦難が主の愛を知る機会となるからです。主は私達を救うために、十字架で死なれました。その主の愛を知ることによって、生きる力と勇気が湧いてきます。

[土]誰も悪いことを教わらないのに、子供は自然と悪いことを身につけます。それはアダムの子の遺伝子があるからです。自分の力ではこの遺伝子を取り除くことは不可能です。そこで主は全ての罪を十字架で贖い、永遠の命を与えて下さいました。



NO.1973 2026.7/19-25

名前

	聖書	問 題	答 え
日	ローマ 2:1-16	神はおのおのの何に従ってお報いになりますか	
月	2:17-3:8	文字ではなく、何によって心に施された割礼こそ割礼なのですか。	
火	3:9-31	正しい人はいますか。	
水	4:1-12	アブラハムは神をどうしたので、それが彼の義と認められましたか。	
木	4:13-25	アブラハムは希望するすべもなくなった時に、何を抱いて信じましたか。	
金	5:1-11	聖霊によって、何が私たちの心に注がれていますか。」	
土	5:12-21	主イエス・キリストを通して何に導くのですか。	
感想と祈りの課題			